

菊陽人 りさーち



いむら りく
井村 陸さん (8歳)
[八久保]

- 趣味 プラモデル作り
- 将来の夢 動物園の飼育員
- 自慢 プラモデル作りが得意です
- 家族に伝えたいこと おもちゃがほしいです

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



みやざき りょうた
宮崎 遼太さん (8歳)
[武8町内]

- 将来の夢 サッカー選手
- 自分を一言で表すと 暗記名人
- 自慢 計算が速い
- みんなに伝えたいこと お母さん、いつもおいしいご飯を作ってくれてありがとう

ゆ た か な 心 を は ぐ く む

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.25】

ここに掲載する作文は、菊陽町内小・中学校の人権教育授業でつづられた作品です。日々のくらしを見つめ、家族に育まれてきた自分を率直に認めることや友だち関係の在り方を見直していくことは自立の一步を踏み出している姿でしょう。
*◇印は、学級担任のコメントです。 *学年は作者が在籍した前年度学年です。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

いろいろな人に
支えられています

「感謝しています。」
菊陽中学校1年 中村 界斗

僕は平成十年二月に元気に生まれました。小さい頃僕はおじいちゃんの家に行き、おじいちゃんや阿蘇の方に連れていってもらいました。そこには自然がいっぱいで心地よかったです。保育園に入った時から畑や阿蘇の方に連れていってもらいました。そこには自然がいっぱいで心地よかったです。小学校になると、おじいちゃんと遊びにいったりする回数も減り、小学校で野球を始めました。おじいちゃんや阿蘇の方に連れていってもらいました。そこには自然がいっぱいで心地よかったです。小学校で野球を始めました。おじいちゃんや阿蘇の方に連れていってもらいました。そこには自然がいっぱいで心地よかったです。



▲しっかり掃除

このように自分はいろいろな人に支えられています。中でも一番強く支えてくれるのは母です。家の仕事をほとんどして、母自身の仕事も頑張っています。母は疲れていると思いますがいつも笑顔で元氣です。
母がゆっくり休めるのは日曜日くらいなのに、弁当も作って野球の試合も見に

来てくれます。そんな母は僕の中では百点満点だし好きです。でも、このごろつい反抗してしまいます。母はきつと傷つき、ストレスも溜まると思います。それでも疲れた顔も見せず元氣に頑張っているの感謝しています。

野球という宝物をくれたのは父です。自分の投球フォームや打法を考えてくれたのも父でした。父自身高校生まで野球をしていて、今でも好きで野球に関しては厳しい人です。
そんな父が一度だけ僕に謝ったことがあります。それは僕が六年生のときの試合で先発を任せられたとき、父が考えたフォームで投げたのですが、肘に負担をかけやすい投げ方だったため骨折しました。それを申し訳なく感じたのだと思います。そのときの左でごはんを食べる生活や荷物は全て左で持つ生活を経験して、健康であることの有り難みがわかりました。その経験がもとで、スポーツ医学の勉強をしたいと思うようになりました。夢はメジャーリーガーですが、医学のことも知っておくべきだと思うからです。

自分の将来の理想は、自分の信じる道を、自分のペースで歩める人です。いつの日かおじいちゃんや父母を幸せにできるようなりたいです。
◇自分のことを心から考えている家族の気持ちや行為に触れ、それに応えていこうとする界斗くんの感謝の気持ちが綴られていて、読んでいる私もすごく温かい気持ちになりました。

とめてくれる人がいて、
とてもうれしかったです

「やねよか」
武蔵ヶ丘北小1年 山本 たつき

ぼくは、「やるよか」のペンギょうをして、「やる」にいじめられるかにの気もちがよくわかりました。さるきちは、かにたちが「いやだ」といっているのに、なかなか石なげをやめません。
ぼくは、このまえなんん人かの人においかげられませんでした。とてもうれしかったです。とめてくれる人がいて、とてもうれしかったです。



▲動物園に行ったよ

ぼくは、いやだったことを、けんこうかんざつのとときに、ともだちといっしょになってみんなにいいました。おいかけていたみんながわかってくれ、あやまつてくれました。うれしかったです。
◇ともだちの力ですごいね。じぶんの気もちをつたえたり、あい手の気もちをうけとめることの大せつさをしっかりとかんじましたね。

菊陽句会報

きくよう文芸

冬ぬくし用件早々片付きて	坂本百合子	みまかりし師は臙夜の今いずこ	佐藤 節
山の端の春の夕やけ女坂	田中 郁子	喪心をいまだ解きかね春寒し	吉野 早苗
春は曙百姓に休みなし	村田 正三	片言のおしやべりの席春列車	井上久美子
穏やかな阿蘇を遠目に布団千す	井 子文	焼土より黒い顔した土筆出る	宮川ユキエ
九十四の母との一日仏の座	財津 早雪	雨を得し麦芽一夜に伸び上る	日高 妙子
沈丁花の香り届けや母のもと	原野レイ子	手作りの太き菱餅児の笑くぼ	曾我 育代
春の阿蘇光の届く白き峰	力 幸子	春泥を納屋に持ち込むトラクター	曾我トモ子
手すさびに折りたる雛の髪長く	寺尾千代子	自由さの裏の淋しさ数椿	紫藤 祥子
啓蟄やお日さま色の友の声	高橋 孝子	水温む心の安堵いただきぬ	村上 朋子
三月の風の香りとベダル漕ぐ	堀川 妙子	みまかりし師恩の楸か春の雷	野口 令史
春暑し学らん脱ぎたき授業中	佐藤 航	熱燗や親馬鹿しのぐ親馬鹿に	松橋 強
かまきりのたまご見つけた枯草に	佐藤 健	雛あられ男の子三人良く育ち	佐藤 澄世

短歌会

寒に耐え今年も梅の小枝には薄紅色の蕾膨らむ
二十度を越す陽気過ぎ寒戻りビニールハウスのメロン玉小さく
この朝は周防の花日は差して紅の色濃く威勢よく咲く
ブロッコリーの割れ間に咲きし紫の小さき花に小さな喜び
父も母も亡きこの春を病窓に涙のごとく雨の流るる
暑き夏を越えて芽吹きし山百合の朝の光の中に勢う
鶉は朝早くより囀りて桜の枝を飛び交いており
朝空に雲雀囀る声聞きて遠阿蘇眺め今日も歩みぬ
登り来し釈迦院寺の楼門に鬼気迫る仁王像二体あり
暖かき光に誘はれ出でし野に一際透る鶯の声

今村 貞子	梅田 國雄	岡本まきこ	菊川あさみ	河北 幸一	佐藤せい子	下田 久子	中村トシエ	森 敦子	山川 カツ
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------